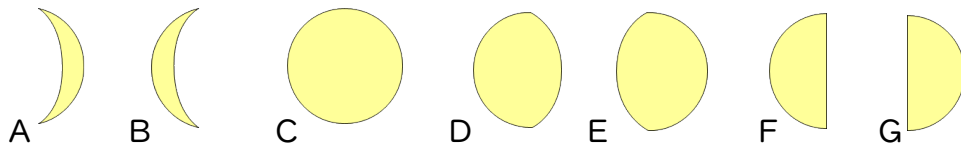


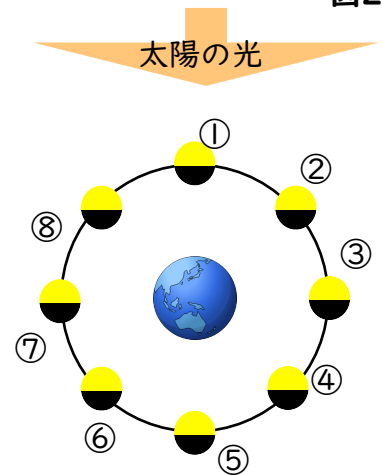
図1のA~Gは、北半球のある地点で南の空に観測できた月の形を表しています。これについて次の問いに答えなさい。

図1



- (1) 図1のA~Gを、Aを始めにして、満ち欠けの順番に並べなさい。
- (2) 図1のC、Fの月をなんといいますか。
- (3) 日の入りのころに南の空に見える月はどれですか。図1のA~Gから選びなさい。
- (4) (3)の月が見えた日から15日後に見られる月はどれですか。図1のA~Gから選びなさい。また、その月は真夜中にはどの方角にあるか、4方位で答えなさい。

図2



- (5) 図2は、地球の周りを回る月の様子を、地球の北極の方向から見たものです。図1のA、Gの月が見えるのは、どの位置に月があるときですか。図2の①~⑧からそれぞれ選びなさい。
- (6) 日食、月食が発生する可能性があるのは、月がどの位置にあるときですか。図2の①~⑧からそれぞれ選びなさい。

(1) → → → → → →	
(2) C	(2) F
(3)	
(4) 記号	(4) 方角
(5) Aの月	(5) Gの月
(6) 日食	(6) 月食

- (1) 月は右側から光り始め、だんだん右側の光る部分が大きくなり、満月を迎えた後はだんだん右側が隠れていきます。開始をAの三日月とすると、A→G→E→C→D→F→Bとなります。
- (2) Cは満月です。Fは左半分が光る月なので、下弦の月です。
- (3) 日の入り（夕方）に南中する月は上弦の月で、右側半分が光る月です。図2を利用して考えることもできますが、下のような表にして覚えておくといいでしょう。新月は朝に東、満月は夕方に東ですから、上弦の月は昼間に東、下弦の月は真夜中に東に上り、東→南→西と時間帯ごとに動いていくと考えましょう。

	新月	上弦の月	満月	下弦の月
東（上る）	朝	昼	夕方	真夜中
南中	昼	夕方	真夜中	朝
西（沈む）	夕方	真夜中	朝	昼

- (4) (3) の解答が上弦の月ですから、その2週間後は左半分が光る下弦の月です。下弦の月は真夜中には南の空に見えます。
- (5) Aの月は三日月です。図2の①が新月で、反時計回りに月が公転するので、三日月は⑧になります。Gの月は上弦の月ですから、三日月よりさらに進み⑦になります。
- (6) 日食は新月が太陽を隠すので①、月食は満月が地球の影に隠れるので⑤の位置にあるときに発生する可能性があります。

(1) A → G → E → C → D → F → B	
(2) C 満月	(2) F 下弦の月
(3) G	
(4) 記号 F	(4) 方角 南
(5) Aの月 ⑧	(5) Gの月 ⑦
(6) 日食 ①	(6) 月食 ⑤